

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（３月定例会）会議録
開催日時	令和２年３月27日（金）午後２時から午後４時まで
開催場所	田無第二庁舎５階 会議室
出席者	委員：攝賀議長、長谷川副議長、岩崎委員、川原委員、北村委員、 木下委員、河野委員、小松委員、菅野委員、高橋委員、星出委員 事務局：掛谷社会教育課長、和田教育部主幹、 江藤課長補佐兼社会教育係長、青木主事
議題	(１)「地域学校協働活動」について (２) その他
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
●令和２年２月の定例会議の会議録について、承認する。 議事（１）「地域学校協働活動」について ○議長：これまでの内容を踏まえて、まずは皆様より「西東京市における地域学校協働活動のあるべき姿」について、発表をお願いしたい。 ○委員：現在は、職場体験等、地域の力を借りて「開かれた学校」の中で子どもたちを育てているのは良いことだと感じている。 虐待等、より複雑な背景（社会問題）を抱えた子どもたちを学校（先生）だけで対応していくことは厳しいのではないかと。 ボランティアの力だけに頼るのではなく、教員の確保等、教育の主体を守ってほしい。 ○委員：子どもたちをよりよく育てる中で、地域の方の力を借りることは、関わる大人（地域住民）にも力や生きがいを与えることに繋がると感じている。 放課後子供教室がさらに充実するとよいのではないかと。（英語学習やパソコン教室等、学校で学んだことの理解を深めていく） 地域での活動（どんど焼き等）を守っていく活動も大切である。 コミュニティスクールを導入しながら進めることも重要である。	

- 委員：地域とのコミュニケーションがとても重要であると感じている。
地域と生徒の保護者との温度差も解消していかないといけないと思う。
学校、保護者、地域とのバランスを意識する必要がある。
(きれいな三角形の関係をつくる、互いを知る)
- 委員：子どもの参画が必要である。
子どもを主体としたプログラムの策定も大切である。
SDGsのようなシステムを作る。
- 委員：地域みんなの学校（地域の大人も通うことで学ぶ、学校の中が見える仕組み等）を作る。
ステップファミリーなど、子どもを取り巻く環境も大きく変化している。
- 委員：子ども条例や小中一貫教育なども踏まえてあるべき姿を検討する必要がある。
教育委員会だけでなく、市の協働活動の一部として、総合的に捉えてほしい。
- 委員：主役は子どもであるが、子どもや学校だけでは教育は成立しないのではない
か。
「地域とともにある学校」を目指す。
(卒業生：帰りたくなる学校、保護者等：通わせたくなる学校、子ども：通
いたくなる学校)
- 委員：次の時代を担っていく子どもたちをどう育てていくかを地域で考える。
⇒その中で学校を中心として横の繋がりもできるのではないか。
- 委員：大人と子どもがともに学びあう環境がよいと思う。
⇒行政の積極的な支援（コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的
な推進）が必要である。
- 委員：「持続可能な地域学校協働活動」のための環境作り
⇒学校の先生が負担感なく、地域と連携した活動をすすめることができる。
⇒仕事を持っていच्छる方や地域の方が参加しやすい、また持つ力を発
揮できる
⇒人材が不足しない。(色々な力を持った方に参加していただける)
- 委員：社会教育は地域住民が豊かな時間を送るために必要なものである。
- 議長：皆様からの発表を踏まえて、提言の作成に向けて進めていきたいと考えてい
るが何かご意見はあるか。

○委 員：「地域」の言葉の定義を明らかにしておく必要がある。

○議 長：今回の議論の内容も踏まえて、提言の作成に向けて次回以降、具体的な議論を進めていきたい。

議事（２）その他

※臨時会の開催について

- ・ 4月13日, 20日（いずれも月曜日）にて調整

※時間・場所は決定次第、連絡

※次回会議（定例会） 4月27日（月）午後2時
田無第二庁舎4階会議室1